

# 平成29年度 西米良村立西米良中学校 自己評価書及び学校関係者評価書

資料1

学校の教育目標：郷土を愛し、心身ともに健康で生き生きと活動する生徒の育成

学校経営ビジョン：「知・徳・体」のバランスのとれた強く、豊かな、自己表現のできる生徒の育成を目指すために、「繋げる」「鍛える」「羽ばたく」をキーワードに、小学校を含めた関係機関、地域との連携を密にし、職員の共通理解・実践に基づく生徒指導・学習指導等に全力で取り組み、よりよい生徒の変容を図る。

( 4段階評価 = 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する )

評価項目	重点目標	方策・手立て	総合		成果と課題	学校関係者評価	評価委員の意見	改善策等
			平均	評価				
学力向上対策の推進	○公開授業を全職員で実施する。	・基礎的・基本的な知識や技能の習得と習得した知識・技能の活用を図る学習活動を明確にした研究授業を計画的に行う。	2.6		○主題・副題を意識した授業実践、研究授業が積み重ねられ、授業改善への前向きな機運がある。 ●現時点ではまだ、全職員授業を行っていない。	3	○生徒による授業評価が大変良い。 ○個別指導がよくなされているのではないかと考える。	○授業研究をさらに深め、「わかる授業」の構築に努める。
	○各種テストの結果を活用・分析し、個々の生徒の伸長を図る。	・各教科ごとに学力を分析し、具体的な手立てを設定し、わかる授業に取組む。 ・生徒の「困り感」を把握し、個々に応じた指導を行う。	2.8		○家庭学習の仕方は4月に全生徒縦割りで協議した。 ●学習方法について具体的に指導を進めていきたい。		○	
	○小中連携を図り、基本的な生活及び望ましい学習習慣の確立に努める。	・家庭学習の仕方や、ノートの取り方の指導を計画的に行う。 ・ノーメディアタイムを設け、家庭への啓発を図る。	2.7		○テスト前期間にノーメディアに取り組むよう啓発した。		○	
	○生徒・保護者による授業評価を実施する。	・生徒の授業評価を学期及び教科ごとに、保護者の授業評価を参観日に実施し、授業改善に役立てる。	2.7		○評価結果の公表によって、保護者の考えを吸い上げることができている。		○	
豊かな心の醸成	○生き方指導としての進路指導、キャリア教育の充実を図る。	・「道徳の時間」や「特別活動」、「総合的な学習の時間」の指導の充実を図る。 ・進路学習、職場体験学習、高校説明会、オープンスクールへの参加、先輩の声を聞く会等、特に体験活動を重視しながら系統的な指導を行う。	3.4		○今年度は、卒業生の声を聞く会を新たに実施し、意義のあるものになった。	4	○工夫のある取り組みが多々行われている。 ○特產品プロジェクトでは、中学生の感性を地域の商品づくりに生かすことができて良いものができている。地域との連携がうまくなされている。 ○あさよむの取組にはマンネリ化したところも感じられる。	○「キャリア教育」や「ふるさと西米良学」が単なる体験活動に終わることがないように、事前事後の活動においてしっかりと深めていく。 ○毎月23日の「あさよむ」の日と関連付けた取組を継続的に行う。
	○「ふるさと西米良学」の推進を図る。	・地域学習、学習発表会の活動、米良太鼓・西米良神楽を通して地域を礎とした教育活動を進める。 ・地域の様々な人材を活用し、「西米良学」を計画的に推進する。	3.3		○体験を振り返る作文指導が充実しており、体験を通して、生徒が考えを深め、成長している。特に、青少年の主張に於ける特產品応援プロジェクトの内容は多くの人に影響を与えたと思われる。		○	
	○読書活動「あさよむ運動」の推進に努める。	・毎月の「あさよむ」実施計画を基に、朝の読書の時間の充実を図る。 ・学校図書館をはじめとして、校内の読書環境づくりに努める。	2.9		○特產品応援プロジェクトは、地域と学校が連携しながら、地元の将来を真剣に考える生徒の育成にあたることができた。		○	
		・本の紹介や「あさよむ号」「やまびこ号」の来校日を掲載した図書だよりを発行する。	3		○村内外の方の話を聞く機会が充実していた。		○	
	○道徳教育、特別支援教育の充実を図る。	・道徳の時間を要に、資料の収集や整理を行い、指導方法の工夫改善に努める。 ・通常の学級の生徒においても特別支援教育の視点をもちらながら、毎週木曜日、月1回の生徒理解の日を通して、個々の生徒の共通理解、実践に努める。 ・教育相談やケース会議及び研修を通して、共通理解・共同実践に務める。	2.4		○23日前後のあさよむ(家読)の取組、毎月の図書だよりを発行した。 ●家読は親への協力の呼びかけが今後必要。		○	
体力・健康安全	○部活動の推進を図る。	・活動時間を確保し、練習試合等も充実させ、活性化を図る。 ・全員の参加を促し、保護者の理解・協力も得る。	2.8		○部活動においては、働き方改革の中で変化があり、これからである。	3	○部活動では、社会体育とのバランスが難しいと感じる。しかし、先生方の負担を減す方向で動いていくと良い。一方で、勝敗にのみならず心配である。	○部活動の「休養日を設定する取組」の試行を通して見つかった課題をひとつずつ丁寧に解決していく。
	○食育、体力の向上、安全及び心身の健康に関する教育の充実に努める。	・村内外の指導者の御支援をいただき指導の充実を図る。 ・郷土料理教室、弁当の日の設定、小中合同で立腰指導等を計画的に行い体力の向上に努める。	3.4		●部活動において、2ヶ月で8回の休みを作らなくてはいけないので、練習の充実が十分に図れない。		○	
		・性教育講座、コミュニケーションスキル講座、救命救急講習会、避難訓練、砂防教室、薬物乱用防止教室、情報モラル教室、交通安全教室等を計画的に行い安全及び健康に関する教育の充実に努める。	3.3		○計画的に弁当の日に取り組み、保護者の協力も得られた。		○	
学校経営の信頼される推進	○学校における安全点検に努める。	・毎月の安全点検を確実に行い、早期に対応する。 ・生徒指導、生徒会活動を通して、校内での安全意識を高める。	3.3			3	○部活動の練習の質を向上させる必要を感じる。	
	○学校便り、各通信等での情報発信に努め、保護者との強い連携を図る。	・学級便り、保健便り、学校便り、ホームページ等で、学級や学校での生徒の様子や行事への取組について、定期的に伝える。	3.3		○研究においては、研究主任を中心にもとまりをもって進めることができた。		○先生方による村の行事への参加に関しては、それぞれの家庭の事情もあるため、無理のない範囲で参加してもらえたらしいと考える。	○本校の特色ある活動や学習の成果などを、さらに発信していく。
	○小学校、地域の関係機関、団体との連携協力及び地域行事への参加に努める。	・学校評価委員による学校評価、民生委員・児童委員との連絡会、職員による自己評価・教育課程の評価を実施する。 ・小中合同での研究、行事を実施する。また、「西米良ならではの教育」の活用を図る。	2.9		●中学校職員は小学校職員に比べ、地域の行事への参加率が低い。評価にこの項目があるなら、もっと声をかけた方がいいのではないかと思う。		○	○スムーズな情報伝達、意志決定ができるように流れをつくる。
	○「教職員評価シート」及び「自己評価書・学校関係者評価書」を活用し、共同実践を図る。	・村の行事への参加・協力に努める。	3.1		●小規模な職員組織ではあるが、情報の流れ、意志決定の仕方は、ある程度基本となるものを決めておく必要がある。	3	○	
		・学校の経営方針、教育活動を示し、共通理解と共同実践に努める。 ・職員の教育活動の共通の指針として、指導に温度差が出ないよう、また繋げるという視点を含めて意識付けを図る。	2.8				○	
			2.6					

次年度の方向性についての校長所見：「西米良だからできること、西米良だからやらなければならないこと」を意識し、学校の教育目標達成のために、保護者や関係機関の支援をいただき、生徒一人一人に応じた指導にあたる。